

## 専門分野

### ○看護の統合と実践

- ・チーム医療論演習
- ・チーム医療論Ⅱ
- ・災害看護
- ・国際看護
- ・医療安全Ⅰ
- ・医療安全Ⅱ
- ・看護マネジメント
- ・看護学総合技術演習Ⅰ
- ・看護学総合技術演習Ⅱ
- ・看護学総合技術演習Ⅲ
- ・キャリアデザイン
- ・看護研究Ⅰ
- ・看護研究Ⅱ
- ・看護の探求Ⅰ
- ・看護の探求Ⅱ
- ・看護の探求Ⅲ
- ・看護の探求Ⅳ

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	チーム医療論演習	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	3年後期	卒業認定の方針との関連	3 多様な場における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働できる力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<p>目的: 地域包括ケア時代を見通した多職種と連携・協働できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 保健医療福祉分野での多職種の役割と責務について説明できる。  2 多職種連携を体験し、チームアプローチに必要な考え方を身に付ける。  3 多職種連携・協働にむけての展望を述べるができる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	*他校と調整後に再掲予定(2026.4 現在) 1 チーム医療における多職種連携 1) 事例検討 2) 看護目標・計画立案 3) カンファレンステーマの選定 4) カンファレンス 5) リフレクション		準備: チーム医療論 I を復習する。 多職種の役割と機能を復習しておく。 復習: 授業内容の復習をする。 事例を読み込み、課題に取り組む。 グループワークに向けて個人で学習する。
2			
3			
4			
5			
6			
7 (3h)			
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	・出席状況 ・授業への参加度(態度) ・発表資料 ・最終レポート		
テキスト	講義の中で紹介する		
参考文献	講義の中で紹介する		
履修上の留意事項	チーム医療論 I と関連がある科目である。 他校と合同授業である。予習復習を主体的に行いカンファレンスに臨む。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	チーム医療論Ⅱ	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	4年次後期	卒業認定の方針との関連	3 多様な場における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働できる力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的:地域における多職種協働連携を理解する。</p> <p>目標: 1 看護専門職として医療から在宅、地域療養に向けての継続看護について理解できる。  2 地域での看護以外の専門職者の多職種連携について理解できる。  3 地域での訪問看護師の多職種連携について理解できる。  4 コミュニティコーピングを体験し一般市民として、地域で暮らす高齢者および高齢者を取り巻く人々の健康支援を考察する。  5 コミュニティコーピングを通して地域における保健医療福祉専門職の役割と課題を述べるができる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1 (3h)	1 継続看護のための協働 1)継続看護とは 2)退院支援・退院調整 3)看護職間の協働 4)多職種との協働	準備:チーム医療論Ⅰ、チーム医療論演習の内容を復習する。 復習:授業内容を復習する。	
2 3	2 地域医療における多職種連携 1)各専門職から考える多職種連携	準備:チーム医療論Ⅰ、チーム医療論演習の内容を復習する。 復習:授業内容を復習する。	
4	3 医療から在宅、地域医療における多職種連携の在り方	準備: 医学書院・地域・在宅看護の実践の第5章を読む。 復習:授業内容を復習する。	
5 6 7	4 コミュニティコーピング(演習) *コミュニティコーピングについて コミュニティコーピングとは一般社団法人コレカラ・サポートが企画・開発を行った、人と地域資源をつなげることで「社会的孤立」を解消する協力型ゲームである。コミュニティコーピングを活用することで、講義だけでは学ぶことのできない、地域住民のもつ困りごとや地域資源および多職種連携を能動的に学ぶことができる。	準備:チーム医療論Ⅰ、チーム医療論演習の内容を復習する。 復習:授業内容を復習する。	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	・授業への参加度 ・最終レポート		
テキスト	授業の中で提示する		
参考文献			
履修上の留意事項	チーム医療論Ⅰ・チーム医療論演習・地域在宅看護援助論Ⅰと関連がある科目である。予習復習を主体的に行い講義に臨む。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	災害看護	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	4年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的:災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、看護職として役割を果たすための基礎的知識を習得する。</p> <p>目標: 1 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響と看護の役割を理解できる。  2 災害サイクルに応じた看護、被災者の健康と生活の再建・向上にむけた援助方法を理解できる。  3 地域における災害対策と看護職の役割を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 災害医療および災害看護の基礎知識 1) 災害の定義、種類と健康被害 2) 災害医療・看護の定義と役割 3) 災害時の支援体制と医療体制 4) 災害と法制度 5) 災害看護の対象と看護活動	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする	
2	2 災害サイクルに応じた活動現場別の看護 1) 急性期・亜急性期 2) 慢性期・復興期 3) 静穏期 4) 病院が被災したときの対応・病院での被災体験		
3	3 被災者特性に応じた災害看護 1) 子どもと家族 2) 妊産婦 3) 高齢者 4) 障害者(精神障害者含む) 5) 慢性疾患患者	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする	
4	4 災害とところのケア 1) 災害がもたらす精神的影響 2) 災害時における心のケアの基本 3) 災害時の心のケアにおける個人とコミュニティの視点 4) 救援者のストレスとところ 5) 災害派遣精神医療チーム(DPAT)の活動		
5	6 災害時の看護(演習) 1) 災害時のトリアージ	準備:講義で学んだ内容を復習する。 復習:授業内容の復習をする	
6	2) 避難所開設等		
7	7 地域における災害対策と看護 1) 地域の防災計画と準備活動 2) 核・放射線災害 3) 自然災害(地震、津波、水害)	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、レポート、演習参加状況他		

テキスト	医学書院 看護の統合と実践③ 災害看護学・国際看護学
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。
履修上の 留意事項	積極的な学習姿勢と主体的な学習を望む。
備考	

科目区分	専門分野(統合)	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	国際看護	単位数(時間)	1単位(15 時間)
開講年次	4年次後期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>目的: 国際看護に関連する基本的概念を理解するとともに、グローバルな視点から人々の健康とその背景について理解し、国際社会での人々の健康と生活の再建・向上にむけた援助方法を理解する。</p> <p>目標: 1 国際社会における保健・医療・福祉の現状と課題を理解できる。  2 世界の多様な文化背景をもつ人々の生活の支援に必要な基本的な知識を理解できる。  3 世界の健康問題の現状と国際救援活動を理解し、今後の看護師に求められる役割や責任について考察できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 国際看護学とは 1) 国際看護学を学ぶ意義 2) 健康に影響する世界の課題 3) 国際看護の定義 4) 国際看護学の対象	準備: 世界の情勢について学習 関心がある国の人口、出生、死亡、平均寿命、経済と格差、紛争、気候変動、教育についてまとめる。テキストを読む。 復習: 授業内容の復習をする。	
2	2 国際看護に関連する基礎知識 1) グローバルヘルス 2) 看護師の国際組織	準備: 「プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションテキスト」の概念について復習する。 SDGsについて調べる。 復習: 授業内容の復習をする	
3	3 国際協力の基礎知識 1) 国際協力のしくみ 2) 国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関 3) 国際救援の調整 4) 開発協力と関連機関	準備: ODA・NGO・NPOの定義を復習 JICAの活動について、HPを閲覧し、テキストを読む。 復習: 授業内容の復習をする。	
4	4 国際協力と看護 1) 開発協力・国際救援における看護の基礎知識 2) 開発協力と看護	準備: 世界の健康に関する新聞や雑誌などから、気になる記事を探し、その国の特徴と健康課題の現状を考える。テキスト・配布資料を読む。 復習: 授業内容の復習をする。	
5	5 国際救援と看護 1) 近年の世界における災害と難民・国内游難民の現状 2) 国際救援活動の基本理念 3) 近年の特徴的な災害・紛争救援活動の概要 4) 国際救援における看護の展開 5) 紛争地における看護	準備: テキスト・配布資料を読む。 復習: 授業内容の復習をする。	
6	6 わが国における文化や制度を考慮した在留外国人への看護の実践 1) 在日外国人・訪日外国人の健康問題と看護 2) 病院における看護活動と看護師の役割 3) 地域における看護活動と看護師の役割	準備: テキスト・配布資料を読む。 復習: 授業内容の復習をする。	

7	7 21世紀の国際協力の課題 1) 人道危機に対応する新たなしくみの構築 2) これからの国際協力	準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする。
	試験	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり	
評価方法	筆記試験、グループワーク参加状況、レポート課題、他	
テキスト	医学書院 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学	
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。	
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な学習姿勢と主体的な学習を望む。</li> <li>・世界の健康問題とその背景を社会・政治・経済・文化的側面をふまえて外観するため、グローバルな視点で授業に参加する。</li> <li>・世界の人々の健康を脅かす要因の一つである戦争・紛争及び難民・避難民の背景を理解し、国際貢献のあり方を考えるため、日ごろからニュースに関心を持つこと。</li> </ul>	
備考		

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	医療安全 I	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)
開講年次	3 年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 医療安全や感染予防の考え方を理解し、看護職としての責任と役割を果たすための基礎的能力を理解する。</p> <p>目標: 1 組織的な医療安全管理体制の取り組みの実際を理解できる。 2 看護事故防止の考え方について理解できる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 組織的な医療安全管理 1) 組織的な医療安全管理体制への取り組み (1)安全文化の醸成 (2)組織的な医療安全管理体制 (3)報告によるリスク把握—分析—対策体制の確立: ヒヤリハットとアクシデント報告の仕方 (4)事故やヒヤリハット事例(インシデント)の分析と対策		準備:テキスト・配布資料を読む。 演習の事前学習をする。 グループワークと発表準備をする。  復習:授業内容の復習をする。
2	2)看護師の労働安全衛生上の事故防止 (1)職業感染 (2)暴露防止 (3)院内暴力		
3	2 療養上の世話の事故防止 1)転倒・転落事故防止 2)摂食中の窒息・誤嚥事故防止		準備:テキスト・配布資料を読む。  復習:授業内容の復習をする。
4	3)異食事故防止 4)入浴中の事故防止		
5	3 看護学実習における安全 1)実習における事故の法的責任と補償 2)実習中の事故予防と事故発生時の対応 3)実習中に発生した事故事例の分析 (GW) 4)危険予知トレーニング (KYT) (GW)		準備:テキスト・配布資料を読む。 グループワークと発表準備をする。  復習:授業内容の復習をする。
6			
7			
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、グループワーク、演習参加状況他		
テキスト	医学書院 看護の統合と実践〔2〕 医療安全		
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	積極的な学習姿勢と主体的な学習を望む。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	医療安全Ⅱ	単位数(時間)	2単位 (30時間)
開講年次	4年次	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的: 医療安全や感染予防の考え方を理解し、看護職としての責任と役割を果たすための基礎的能力を習得する。</p> <p>目標: 1 看護事故防止の取り組みとその防止策について理解できる。 2 チーム医療の中の医療安全における看護師としての役割と責任を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 診療の補助の事故防止	<p>準備:テキスト・配布資料を読む。 演習の事前学習と演習準備をする。</p> <p>復習:授業内容の復習をする。</p>	
2	1) 患者に投与する業務における事故防止		
3	2) 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止		
4	3) 事故防止と安全管理の実際【演習】		
5	(1) 輸液ポンプ・シリンジポンプの事故防止 (2) チューブ管理における事故防止 (3) 内服・検査		
6	2 業務領域を越えて共通する間違いと発生因子	<p>準備:テキスト・配布資料を読む。</p> <p>復習:授業内容の復習をする。 グループワークと発表準備をする。</p>	
7	1) 患者間違い		
8	2) 情報伝達の混乱と情報共有の不足		
9	3) 間違いを誘発するタイムプレッシャーと途中中断 4) 新人特有の危険な思い込みと行動パターン 5) 危険予知トレーニング (KYT) 【GW】		
10	3 インシデント・アクシデント分析の実際【GW】	<p>準備:事例を読んで、個人ワークをする。 復習:授業内容の復習をする。 グループワークと発表準備</p>	
11			
12	4 看護実践場面で生じた医療事故の分析(事例検討)【GW】	<p>準備:事例を読んで、個人ワークをする。 復習:授業内容の復習をする。 グループワークと発表準備をする。</p>	
13			
14 (3h)	5 医療安全とコミュニケーション	<p>準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする。</p>	
	1) チーム医療におけるコミュニケーションの重要性 2) 安全な医療・看護のための医療職間のコミュニケーション 3) 安全な医療・看護のための患者・家族とのコミュニケーション		
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、グループワーク、演習参加状況他		
テキスト	医学書院 看護の統合と実践〔2〕 医療安全		

参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。
履修上の 留意事項	積極的な学習姿勢と主体的な学習を望む。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護マネジメント	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	4年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>目的: 看護マネジメントの概要を理解し、看護を効率的・効果的に提供できる基礎的能力を養う。</p> <p>目標: 1 看護マネジメントの概念を理解できる。  2 組織として看護を提供する意味を学び、看護サービス、看護ケアのマネジメントの概要を理解できる。  3 看護職としてのセルフマネジメントの概要を理解できる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 看護マネジメント 1) 看護マネジメントとは 2) 看護マネジメントの方法 3) 効率性と効果性		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする。
2	2 組織におけるマネジメント 1) 組織で取り組む看護活動 (1) 組織とは (2) 分業と協働 (3) サービスマネジメント (4) ヒトのマネジメント (5) モノの管理		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする。
3			
4	(6) 情報の管理 (7) カネの管理 (8) 組織におけるリスクマネジメント		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする。
5	(9) 組織倫理 (10) サービスの評価		
6	3 セルフマネジメント 1) セルフマネジメント		準備:テキスト・配布資料を読む。 復習:授業内容の復習をする。
7	2) 看護専門職とキャリア		
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、グループワーク参加状況他		
テキスト	メディカ出版 看護の統合と実践① 看護管理		
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	積極的な学習姿勢と主体的な学習を望む。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護学総合技術演習 I	単位数(時間)	1 単位(30 時間)
開講年次	3年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
目的: 知識と技術を統合し、対象にあわせた看護を実践するための基礎的能力を習得する。			
目標: 1 対象にあわせた安全・安楽・自立を考慮した日常生活援助技術を実施できる。 2 自己の看護実践を客観的に評価し、課題を明確にできる。			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	1 OSCE(客観的臨床能力試験)前課題への取り組み		準備:基礎看護学の授業及び実習を振り返り、自己課題に取り組む。  復習:事例及び基礎看護技術の自己課題に繰り返し取り組む。
2	1) 看護技術の実施に必要な知識・技術・態度		
3	2) 事例のアセスメント		
4	3) 事例の看護計画		
5	*事例は再掲予定(2026.4現在)		
6	*事例は厚生労働省が示す卒業時の技術到達度(日常生活の援助)を参考に作成する。		
7			
8			
9	事例1 環境整備の援助が必要な患者の看護		
10	事例2 移乗・移動の援助が必要な患者の看護		
11	事例3 食事の援助が必要な患者の看護		
12	事例4 排泄の援助が必要な患者の看護		
13	事例5 清潔の援助が必要な患者の看護		
14 (1h)	2 OSCE(客観的臨床能力試験)		準備:事例及び基礎看護技術の自己課題に繰り返し取り組む。 復習:OSCE 後に振り返りシートを記入し提出する。
15 (3h)	リフレクション まとめ		準備:事前課題に取り組む。
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	OSCE(客観的臨床試験)、事前学習、レポート等		
テキスト	基礎看護学のテキスト、自身が必要とするテキスト		
参考文献			
履修上の留意事項	領域・経過別実習開始前に履修する。 基礎看護学で学習した内容を原理原則に基づいて理解でき、実践できるよう、主体的に技術練習をすること。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護学総合技術演習Ⅱ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	4年次前期	卒業認定の方針との関連	2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無
<p>目的: 臨床の状況に対応しながら、看護を実践するための基礎的能力を習得する。</p> <p>目標: 1 複数の対象の看護展開の特徴を説明できる。  2 対象のニーズに合わせた看護援助が実施できる。  3 変化する状況の中でも医療事故や感染の防止対策を理解し、必要な行動がとれる。  4 複数の対象の看護に必要な能力を理解し、自己の課題を説明できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 看護業務の特徴 多重課題、タイムマネジメント、状況への対応(予定変更、複数の人とのかかわり・連携・協働)	準備:医療安全、看護マネジメントの授業内容を復習する。 テキストを読む。 復習:授業内容を復習する。	
2	2 複数の対象の看護展開の特徴 身体・精神・社会的側面の状態の予測、根拠に基づいた状況判断、優先順位の決定と対処		
3	3 複数対象への看護の実際	準備:課題についての事前学習 復習:授業内容の復習	
4	1) 事例検討 ①(通常時)	準備:課題についての事前学習 復習:授業内容の復習	
5	2) 事例検討 ②(緊急時・急変時)		
6			
7	3) 事例検討 ③(災害時)	準備:課題についての事前学習 復習:授業内容の復習	
8			
9	4 複数対象への看護の実際 状況に合わせた優先順位の決定とニーズに応じた看護援助(状況に基づいたシミュレーション)	準備:課題となる看護技術の練習 復習:授業内容の復習	
10	1) 事例検討① 振り返り、グループ討議	準備:課題についての事前学習 復習:授業内容の復習	
11	2) 事例検討② 振り返り、グループ討議		
12	3) 事例検討③ 振り返り、グループ討議	準備:課題についての事前学習 復習:授業内容の復習	
13			
14		復習:授業内容の復習	
15	まとめ(1) 試験(1)		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	筆記試験、レポート課題、参加状況等		
テキスト	メディカ出版 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院 看護の統合と実践[2] 医療安全 医学書院 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ		
参考文献			
履修上の留意事項			
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護学総合技術演習Ⅲ	単位数(時間)	2単位(45時間)
開講年次	4年次	卒業認定の方針との関連	2 専門的知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
<p>目的: 知識・技術・態度を統合し、対象にあわせた看護を実践するための基礎的能力を習得する。</p> <p>目標: 1 対象にあわせて安全・安楽・自立を考慮した援助技術を実施できる。 2 自己の看護実践を客観的に評価し、課題を明確にできる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	<p>1 OSCE(客観的臨床能力試験)前課題への取り組み</p> <p>1) 看護技術の実施に必要な知識・技術・態度</p> <p>2) 事例のアセスメント</p> <p>3) 事例の看護計画</p> <p>*事例は再掲予定(2026.4現在)</p> <p>*事例は厚生労働省が示す卒業時の技術到達度を参考に作成する。</p> <p>*事例の診断名や治療等も課題提示する。</p> <p>事例1 地域で暮らす対象の看護</p> <p>事例2 成人期の患者の看護</p> <p>事例3 老年期の患者の看護</p> <p>事例4 小児期の患者の看護</p> <p>事例5 褥婦の看護</p> <p>事例6 精神疾患をもつ患者の看護</p> <p>事例7 災害下で暮らす対象の看護</p>	<p>準備:提示された事例について調べまとめる。</p> <p>復習:事例の状況にあわせた援助技術を繰り返し練習する。</p>	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20 (3h)			
21 (1h)	2 OSCE(客観的臨床能力試験)	<p>準備:事例の状況にあわせた援助技術を繰り返し練習する。</p> <p>復習:OSCE 後に振り返りシートを記入し提出する。</p>	
22 (3h)	リフレクション まとめ	<p>準備:事前課題に取り組む。</p> <p>復習:学びを振り返り看護の探求Ⅳにつなげる。</p>	
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	OSCE(客観的臨床能力試験)、事前学習、レポート等		
テキスト	これまでの使用テキスト、授業資料等		
参考文献			

履修上の 留意事項	各領域からの事例が提示されるため、看護実習室を利用し技術練習を主体的に行う。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	キャリアデザイン	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	3年次後期	卒業認定の方針との関連	4 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。
講師名		実務経験の有無	有 ・ 無
目的: 自己の職業人生設計(キャリアデザイン)を考えることができる。			
目標: 1 看護師として何をやりたいのか(動機、欲求)をイメージできる。 2 自分にとって何が大切なのか(意味、価値)を見出すことができる。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 キャリアとは 2 看護師のキャリア形成と自己実現 1) 厚生労働省の看護師研修制度 (1)新人看護職員研修ガイドライン (2)特定行為に係る看護師の研修制度 2) 茨城県の看護師研修制度 (1)看護師研修事業と研修費の助成 (2)看護協会への委託事業(研修)	事前課題:キャリアデザインシートに目標や将来のビジョンを記入し提出する。  準備:教科書を読む、厚生労働省及び茨城県看護協会のHPを閲覧する。 復習:授業内容を復習する。	
2	3) 病院のキャリアラダー制度	準備:配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。自己のキャリアデザインシートを振り返る。	
3	3 看護職の専門性 1) 専門看護師 2) 認定看護師	準備:配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。自己のキャリアデザインシートを振り返る。	
4	3) 特定行為 4) 保健師	準備:配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。自己のキャリアデザインシートを振り返る。	
5	4 看護の場 1) 訪問看護ステーション 2) 障害児・者福祉施設 3) 開業助産師(出張)	準備:配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。自己のキャリアデザインシートを振り返る。	
6	5 離職・再就業 1) ハローワーク 2) ナースセンター再就業支援	準備:配布資料を読む。 復習:授業内容を復習する。自己のキャリアデザインシートを振り返る。	
7 (3h)	6 自己のキャリアデザイン (グループワーク・発表)	事前課題:新たなキャリアデザインシートに目標や将来のビジョンを記入し提出する。 事後課題:課題レポート	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	課題レポート、出席状況		
テキスト	医学書院 基礎看護学〔1〕看護学概論 メディカ出版 看護の統合と実践① 看護管理 医学書院 看護の統合と実践〔1〕看護管理		

参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。
履修上の 留意事項	
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護研究 I	単位数(時間)	1 単位(30時間)
開講年次	3年次後期	卒業認定の方針との関連	4 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的:研究の基本的な考え方や研究過程を理解し、研究成果を看護実践に活用するために必要な基礎的知識を習得する。</p> <p>目標: 1 看護研究の意義と研究過程の概要を理解できる。  2 看護研究の学術情報を探索する方法が理解できる。  3 看護論文を批判的に吟味する重要性を理解できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 研究の基礎知識 1) 研究の意義と過程、研究の目的、成果 2) 研究の種類と方法 質的研究と量的研究	準備:テキストを読む 復習:授業の復習をする。	
2	2 研究過程 1) 研究課題の明確化 2) 文献検索と文献検討 3) 概念枠組みの設定 4) 仮説の設定	準備:テキストを読む 復習:授業の復習をする。	
3	3 文献検索の実際 1) 電子ジャーナル	準備:テキストを読む 復習:授業の復習をする。	
4	4 研究における倫理的配慮 1) 遵守すべき倫理原則と擁護すべき権利 2) 研究倫理に関するガイドライン	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
5	5 研究計画書の作成 1) 論文の一般的な構成と留意点 2) 文献の引用方法と記述	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
6	6 研究発表 1) 研究成果を発表することの意義 2) 発表の場・発表方法	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
7	7 データ収集・分析 1) 質的データ分析	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
8	2) 量的データ分析 分布・代表値・散布度・外れ値		
9	統計的仮説検定 検定法		
10	重回帰分析 ロジスティック回帰分析		
11	8 文献クリティーク 1) クリティークの目的	準備:テキストを読む。 復習:授業の復習をする。	
12	2) 論文の構成の把握		
13	3) クリティークのポイント		
14	4) クリティークの実際 量的研究 質的研究 ケースレポート・事例研究		
15	試験(1) まとめ(1)		

履修要件	
評価方法	筆記試験 レポート 授業態度 等
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院
参考文献	
履修上の 留意事項	看護研究Ⅱの前段階として学習する科目であるため、自分の興味や関心に考えを巡らせ、主体的に学習する。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護研究Ⅱ	単位数(時間)	2単位(45 時間)
開講年次	4年次通年	卒業認定の方針との関連	4 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。
講師名		実務経験の有無	有・無
<p>目的:研究過程を通して、看護実践を振り返り、問題解決に必要な知識と態度を習得する。科学的根拠に基づいて看護観を深める。</p> <p>目標:1 ケーススタディ作成の基礎を理解し、論文が作成できる。  2 作成した論文をもとに成果を発表できる。  3 看護実践の質向上を目指し、看護を考えることができる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 研究における倫理的配慮 2 ケーススタディの基礎 1) ケーススタディとは 2) 計画・実施・評価 3) 原著論文のクリティーク 4) 文献検索 ・先行研究の整理と活用 3 ケーススタディの作成 1) テーマの焦点化 ・研究課題の明確化と目的設定 2) 事例選定 ・データの収集方法と分析の視点 3) 論文作成 ・記述方法と分析の実際 4) 考察の展開 ・エビデンスと実践の統合 5) 成果のまとめ方 ・レポート構成 ・参考文献、引用文献の記載  *発表を含む	準備:看護研究Ⅰを復習する。 提示された課題に取り組み、期日内に提出する。  復習:主体的に文献検索や論文作成をすすめる。	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22 (3h)			
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	計画書、論文、発表、学習態度		
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究、医学書院		
参考文献			
履修上の留意事項	論理的思考および看護研究Ⅰの学習を前提として、実際に論文を作成する科目であるため、十分に復習して臨む。		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護の探究 I	単位数(時間)	1 単位(15 時間)
開講年次	1 年次	卒業認定の方針との関連	4 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<p>目的: 実習を教材として、自ら学び続けるための思考力・探究力を養う。</p> <p>目標: 1 臨地実習での体験をもとに、体験を構造的に捉え、意味づけし、次の行動に結びつける学習過程を自ら実践できる。</p> <p>1) 実習の目的を理解し、自分の課題と行動目標をもって取り組むことができる。</p> <p>2) 体験したことを整理し、看護と関連づけて意味を考えることができる。</p> <p>3) 振り返りを通して次の行動を自分で考えることができる。</p> <p>2 異なる意見を受け止めながら、他者の背景や立場に関心を持ち、関わることができる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1 (3h)	<p>臨地実習で何を学ぶのか</p> <p>— 体験を通して学ぶことの意味 —</p> <p>1 1 年次の臨地実習で学ぶこと</p> <p>2 臨地実習の構成</p> <p>1)オリエンテーション</p> <p>2)行動目標—実践—評価</p> <p>3)言語化する(発表又は記録)</p> <p>4)実践を振り返る</p> <p>3 シミュレーションで何を学ぶのか</p> <p>4 リフレクションから何を学ぶのか</p>	<p>準備:提示された課題に取り組む。</p> <p>復習:ことばとその内容の意味を理解できるようにする。</p>	
2	<p>5 基礎看護学実習 I 臨地実習オリエンテーション</p> <p>*実習に必要な知識の確認テスト</p>	<p>準備:実習要領を読み、わからないところは質問できるようにしておく。</p> <p>・ビジュアル「初めての实習ガイド基礎編・実践編」を視聴し、要点をまとめる。</p> <p>復習:不明な点を質問し、明らかにする。</p>	
3	<p>6 臨地実習マナーシミュレーション</p> <p>(身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い、挨拶、報告、相談)</p>	<p>準備:ホスピタリティコミュニケーションの内容を復習する。</p> <p>復習:課題をクリアできるよう練習する。</p>	
4			
5	<p>7 基礎看護学実習 II オリエンテーション</p> <p>実習に必要な知識の確認テスト</p>	<p>準備:実習要領を読み、わからないところは質問できるようにしておく。</p> <p>復習:不明な点を質問し、明らかにする。</p>	
6	<p>8 臨地実習コミュニケーションシミュレーション</p> <p>(受け持ち患者とのコミュニケーション)</p>	<p>準備:ホスピタリティコミュニケーションの内容を復習する。</p> <p>復習:次回の実施に活かせるよう考察・行動する。</p>	
7	<p>9 基礎看護学実習 II リフレクション</p> <p>・テーマ「看護師にとって必要なものは何か」に沿ってグループで考察した内容を発表して、クラスメンバーと意見交換をする。</p> <p>・基礎実習(I・II)をとおして学んだことについて、クラスメンバーと意見交換をする。</p>	<p>準備:テーマに沿って、個人の考えをレポートにまとめる。(なぜ、そう思ったのか理由も含める)</p> <p>復習:次回の実施に活かせるよう考察・行動する。事後課題に取り組む。</p>	
	試験		
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		

評価方法	授業・演習への参加度、 確認テスト、 レポート・発表内容、 口頭式問
テキスト	なし
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 シミュレーションやリフレクション・グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護の探究Ⅱ	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	2年次	卒業認定の方針との関連	4 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<p>目的: 1 実習を教材として、自ら学び続けるための思考力・探究力を養う。</p> <p>目標: 1 対象理解について自らの考え(アセスメント)を、根拠をもって他者に説明できる。  2 他者の考え(アセスメント)や意見を傾聴し、相違点・共通点を整理して言語化できる。  3 リフレクティブサイクルに基づいたリフレクションの方法が理解できる。  4 全体を見て役割を調整し、他者と連携して行動できる。</p>			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 2年次の臨地実習での看護実践 1)看護技術 2)臨床的思考と看護過程 3)援助関係 2 臨地実習の構成 1) オリエンテーション 2) 行動目標—実践—評価 3) 言語化する(発表又は記録) 4) カンファレンスとは 3 リフレクションとは 1) リフレクションと学び 2) リフレクティブサイクル 3) リフレクションの方法	準備:提示された課題に取り組む。  復習:ことばとその内容の意味を理解できるようにする。	
2	4 基礎看護学実習Ⅲ 臨地実習オリエンテーション	準備:実習要領を読み、わからないところは質問できるようにしておく。 復習:不明な点を質問し、明らかにする。	
3	5 実習シミュレーション(計画発表、SBAR、対象への援助;技術の統合)	準備:提示された課題に取り組む。 復習:看護技術練習	
4	6 基礎看護学実習Ⅲリフレクション	準備:実習体験において、印象に残った場面・気がかりだった場面・不安や戸惑いが生じた場面等を整理し、説明できるようにしておく。 復習:教員と確認した内容を整理し、期日までに提出する。	
5	7 基礎看護学実習Ⅳ 臨地実習オリエンテーション	準備:実習要領を読み、わからないところは質問できるようにしておく。 復習:不明な点を質問し、明らかにする。	
6	8 基礎看護学実習Ⅳ リフレクション	準備:実習体験において、印象に残った場面・気がかりだった場面・不安や戸惑いが生じた場面等を整理し、説明できるようにしておく。 復習:事後:教員と確認した内容を整理し、期日までに提出する。	
7 (3h)	9 グループワーク 発表 実施した看護援助について、チームで評価・修正し、対象に対する最適な看護を計画する。	準備:これまでの学習内容を復習する。意見交換・発表ができるように準備する。 復習:授業を振り返り、自分の思考や行動を分析する。 次回の看護実践に活かせるよう考察・行動する。	

履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり
評価方法	授業への参加度 レポート 筆記試験 口頭式問
テキスト	なし
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 シミュレーションやリフレクションは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。
備考	

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護の探究Ⅲ	単位数(時間)	1単位(15時間)
開講年次	3年次	卒業認定の方針との関連	4 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
<p>目的: 実習を教材として、自ら学び続けるための思考力・探究力を養う。</p> <p>目標: 1 実習の体験を意味づけ、今後の自己の取り組み(体験の意味づけをどのように活かすか)が説明できる。</p> <p>2 自己理解を深め、自身の強みを活用しながら生涯にわたって研鑽を積む姿勢をもつことができる。</p>			
回数	授業計画		授業準備と復習
1	<p>1 3年次の臨地実習での看護実践とは</p> <p>1) 対象の状態をとらえた看護実践であること</p> <p>2) 対象が望む生活を送るための看護実践であること</p> <p>3) 対象や多職種とともに支援を生みだすこと</p> <p>2 文献に裏付けられる援助</p> <p>3 ナラティブとは</p> <p>1) ナラティブが意味するもの</p> <p>2) ナラティブ</p>		<p>準備:各領域における看護の要点整理をすることで、これまで学習したことを再度整理しておく。指定された課題に取り組む。</p> <p>復習:ナラティブに関する文献を読む。実践に関連する文献を準備する。</p>
2	<p>4 領域別看護学実習オリエンテーション (老年看護学実習、精神看護学実習、3年次履修科目)</p>		<p>準備:実習要領を読み、わからないところは質問できるようにしておく。</p> <p>復習:不明な点を質問し、明らかにする。</p>
3			
4			
5	<p>5 各看護領域のナラティブ (3領域;老年看護学実習、3年次履修の2科目)</p>		<p>準備:印象に残ったことを想起しまとめておく。</p> <p>復習:授業を振り返り、自分の思考や行動を分析する。次回の看護実践に活かせるよう考察・行動する。</p>
6			
7 (3h)	<p>6 精神看護学実習のナラティブ</p>		<p>準備:印象に残ったことを想起しまとめておく。</p> <p>復習:別途提示する。</p>
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	授業への参加度 レポート 筆記試験 口頭式問		
テキスト	なし		
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	<p>予習・復習をして授業に臨むこと。</p> <p>リフレクションは積極的な参加姿勢で臨むこと。</p> <p>提出物は、提出日時を厳守すること。</p>		
備考			

科目区分	専門分野	教育内容	看護の統合と実践
授業科目	看護の探究Ⅳ	単位数(時間)	1単位(30時間)
開講年次	4年次	卒業認定の方針との関連	4 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。
講師名		実務経験の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無
目的: 実習を教材として、自ら学び続けるための思考力・探究力を養う。			
目標: 1 実習に必要な学習内容を理解し、関連する文献や資料を準備できる。 2 各領域での実習体験を客観的に整理し、語る・聴くことを通して、自己の看護観を深める。			
回数	授業計画	授業準備と復習	
1	1 領域別看護学実習オリエンテーション (4年次履修科目)	準備:実習要領を読み、わからないところは質問できるようにしておく。実習に必要な文献や資料を活用できるようにする。 復習:不明な点を質問し、明らかにする。	
2			
3			
4			
5	2 領域別看護学実習のナラティブ看護(4領域)	準備:印象に残った看護実践を想起しまとめておく。 復習:レポートを作成し、指定の期日に提出する。	
6			
7			
8			
9	3 4年次の臨地実習での看護実践とは 1) マネジメントを考えながらの実践であること 2) チームで行う看護実践であること 3) チーム医療の一員として行う支援を考えること 4) 統合実習オリエンテーション(複数受け持ち・マネジメント)	準備:関連する科目について復習する。 実習要領を読み、わからないところは質問できるようにしておく。 復習:不明な点を質問し、明らかにする。これまで学習したことを再度整理し、活用できるようファイリングする。実践に関連する文献を準備する。	
10			
11	4 統合実習の学びの共有 ナラティブ看護①(個人) ナラティブ看護②(グループワーク)	準備:統合実習での成果を共有できるように整理しておく。 復習:看護実践能力として求められていることを調べる。	
12			
13			
14			
15			
履修要件	履修規程 授業科目の履修等 第4条のとおり		
評価方法	授業への参加度 レポート 口頭試問		
テキスト	なし		
参考文献	必要な資料がある場合、講師が適宜準備し、配布する。		
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 シミュレーションやリフレクション、ナラティブは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は、提出日時を厳守すること。		
備考			